

東京DMAT指定病院の拡充

1 拡充方針

全ての三次医療機関を東京DMAT指定病院とする。

救命救急センターの指定要件は、複数の診療科目にわたる高度な医療処置を施すことができる医師、看護師等を24時間体制で相当数配置することが求められているため、東京DMAT出動時においても高度な救命処置を施しつつ、通常の救急医療体制も確保することができる。

2 東京DMAT指定病院

令和3年4月現在 25病院

平成16年8月2日（7病院）

日本医科大学付属病院	都立広尾病院
帝京大学医学部附属病院	都立墨東病院
杏林大学医学部付属病院	都立多摩総合医療センター
国立病院機構災害医療センター	

平成17年9月16日（6病院）

昭和大学病院	東京医科大学八王子医療センター
東京医科大学病院	青梅市立総合病院
東京女子医科大学東医療センター	東京曳舟病院

平成19年3月12日（4病院）

東邦大学医療センター大森病院	武蔵野赤十字病院
東海大学八王子病院	公立昭和病院

平成22年3月19日（2病院）

日本大学医学部附属板橋病院	東京女子医科大学病院
---------------	------------

平成22年8月20日（3病院）

東京医科歯科大学医学部附属病院	国立病院機構東京医療センター
日本医科大学多摩永山病院	

平成24年3月1日（3病院）

日本大学病院	聖路加国際病院
日本赤十字社医療センター	

3 新規指定予定病院

国立国際医療研究センター病院

- ・救命救急センター
- ・災害拠点病院
- ・特定感染症指定医療機関
- ・指定病院への意向あり

東京DMAT指定病院の拡充

4 指定理由

医療政策の一環として、三次を含む全科的総合救急医療及び精神救急医療を提供している。都内の救急搬送件数で最大数の件数を受け入れている。

〈令和2年における救急患者受入の状況〉

受入件数：10,793件、応需件数：8,341件、応需率：92.8%

【参考】

〈東京DMAT指定病院における令和2年救急患者受け入れ状況の平均〉

受入件数：5,619件、応需件数：4,338件、応需率：70.5%

①国内における災害等派遣実績について

・東日本大震災が発生した2011年3月11日から6月30日まで、2日おきに医療チームを送り、緊急医療支援や巡回診療にあたった。

・合計52隊、延べ277名の医師、看護師、助産師、薬剤師、臨床心理士、心理療法士、事務職が派遣された。

（東日本大震災における東京DMATの平均派遣日数は5.8日間）

・2019年9月9日から13日にかけて台風15号による停電被害のあった千葉県へDMATを8名派遣し、千葉大学病院、東千葉メディカルセンター、長生病院における病院支援として、診療業務や搬送業務にあたった。

・即位礼（令和元年10月21日から10月24日）の際にテロ被害者等対応医療機関として式典開催期間中におけるNBC災害を含むテロ等危機事案発生時等不測の事態において重症患者又は多数傷病者を受け入れるために必要な体制を確保した。

②海外における災害等派遣実績について

世界各地で発生する自然災害・紛争・感染症の蔓延などによって脅かされる生命や健康の危機に国際緊急援助を行っており、日本国内での被災地支援にも、開発途上国で人々の健康を守るために活動する国立国際医療研究センターならではのノウハウと経験を活かしている。

〈国際派遣実績〉

・自然災害に関するもの：14件（インドネシア・ジャワ島等）

・感染症に関するもの：4件（コンゴ民主共和国等）

③区西部保健医療圏における到着までの所要時間の平均 29分（全都内で最長）

5 目的と今後の方針

○東京DMATの更なる活動幅の広がりが見込まれる中で、既存の業務に加え、未曾有の状況下でも対応できる即応力の強化を図る。

○救急・災害・感染症等の幅広い分野に対応できる国立国際医療研究センター病院を指定病院に追加することで、都の災害医療体制の更なる強化を図る。

今後は、東京DMATの早期出動や業務幅の広がり等の影響を踏まえつつ、不測の事態にも迅速かつ確実に対応できるような災害医療体制の構築について、東京DMATの在り方等も含め、引き続き検証を行うとともに更なる充実・強化を目指す。